第１回　港湾工事におけるプレキャスト工法導入促進検討会
議事概要

日　時　：　令和４年 10 月５日（水）15:00～17:00
場　所　：（一財）港湾空港総合技術センター会議室（Web 会議併用）

１．主な議事

〇事務局より、検討会の趣旨及びスケジュール、論点整理、評価手法、マニュアル（骨子案）等について説明を行った後、委員による意見交換を行った。

２．主な意見

【論点整理について】

〇プレキャスト工法の導入検討は、より上流側の基本設計の段階で実施するのが手戻りがなく、コストダウンにつながる可能性があるので望ましい。

〇基本設計の段階で施工に係る評価項目をどのように取り入れるか、設計者と施工者のマッチングが重要である。

〇設計の標準化が必要。継手部、接合部など設計手法の基準化、標準化についても並行して検討を行うことが重要。標準化が出来れば設計の効率化にもつながる。

〇プレキャストは必ずしも環境負荷低減効果があるものではないので誤解されないよう修正すべき。

【評価項目及び評価手法について】

〇評価項目において、施工のしやすさや安全性、地域貢献度、整備効果の早期発現等の観点は重要で、これらは施設の構造や場所で異なるので、考え方を整理する必要がある。

〇プレキャスト部材の大きさは、地元企業の施工能力を考慮すべき。

〇評価手法については、実用面を考慮して、過度に複雑にならないようにした方が良い。

〇評価手法における評価項目の選定や重み付けは、ステイクホルダーの立場によって変わることに留意。また、試算結果等を踏まえて設定するが、今後の試行工事や運用に

おいて適宜見直す必要がある。

○公平性が担保できれば評価手法は特に気にする必要はない。

○できる限り数値にできるものはコスト換算をしていくことが必要。

【マニュアルについて】

○マニュアルは基本設計の段階での利用を主として作成するが、施工のしやすさや安全性等の評価項目も考慮できるように施工段階でも利用可能な内容にした方が良い。

○事例集については、プレキャストの採用条件を精査して整備した方が良い。

○LCC や維持管理の観点からプレキャスト部材採用による効果などを事例に追記した方が良い。

○マニュアルを使う場面で評価項目が違ったりするので、いくつかのパターンがあっても良い。

【来年度以降の試行について】

○試行工事において、評価手法や評価項目の分析だけでなく、歩掛の調査やその他データを取得してもいいのではないか。

○試行工事だけでなく、設計などの試行業務も必要ではないか。

以上